専大スポーツ
【専大スポーツ】https://www.senshu-u.ac.jp/sports/
No.471

最優秀団体賞

5年連続 スピードスケート部

第65回体育会表彰式

5年連続で最優秀団体賞に輝いたスピードスケート部

17団体82人を表彰

2025年度に顕著な成績を収めた部や個人を表彰する第65回専修大学体育会表彰式が3月19日、生田キャンパスで行われ、17団体・82人（重複含む）の栄誉をたたえた。

最優秀団体賞は日本学生氷上競技選手権大会（以下インカレ）で2年連続、20回目の優勝を遂げたスピードスケート部が5年連続で受賞した。

最優秀選手賞には、インカレで個人、団体競技合わせて3冠を達成したスピードスケート部の笠原光太朗（経営4・帯広三条高）が輝いた。最優秀新人賞はインカレで男子1000㍍を制した宮坂大地（経営1・白樺学園高）が選出された。（佐藤佑樹・経済2）

功労賞の佐々木前学長（左）に石崎徹体育部長から感謝状が贈られた

受賞団体・選手

学生の敬称略。カッコ内は部名。★は新人賞、●は校友会学生奨励賞の受賞者。

【最優秀団体賞・校友会賞】
▽スピードスケート部●

【優秀団体賞】
▽準硬式野球部
▽水泳部（水球）
▽卓球部（男子）
▽馬術部
▽バレーボール部
▽フェンシング部（男子・女子）

【敢闘団体賞】
▽東洋伝拳法部
▽ローラースケート部

【最優秀選手賞・育友会賞】
▽笠原光太朗●（スピードスケート）

【最優秀新人賞・優秀選手賞・育友会賞】
▽宮坂大地●（スピードスケート）

【優秀選手賞】
▽竹節天太●（スキー）▽高見澤匠冴●▽軍司一冴●▽笹渕遥人●▽立花英太郎●▽辻本楓芽●▽村下巧★●（以上スピードスケート）▽栩内陽向●（相撲）▽堀辰至●（東洋伝拳法）▽甲斐優斗●（バレーボール）▽山本耀平●（ラグビー）▽高原崇陽●▽向田旭登●▽島崎翔悟●（以上レスリング）

【殊勲選手賞】
▽小田祥平（ゴルフ）▽中嶌理貴▽岩永吉平（以上水泳・競泳）▽長岡歓平▽中嶋央二郎▽佐藤めだる▽山川伶欧（以上スキー）▽井出雄斗▽林拓磨▽黒坂快斗★（以上スピードスケート）▽河本優心★（相撲）▽武南友陽▽岡田将太郎▽松岡凛桜★（以上馬術）▽アピアパトリック眞▽瀬川怜奈（以上バトントワーリング）▽熊谷志孔（フェンシング）▽米田祐太郎▽上村律心▽石原弘幸▽松村祥太郎▽井上隼佑▽徳原誠馬▽乾志音★▽湯浅堅斗★（以上レスリング）

【敢闘選手賞】
▽藤縄輔玖★（カヌー）▽健太▽田中雄揮▽宮尾日向▽清水友惺★（以上準硬式野球）▽溜大河▽木塚陽斗▽中谷歩夢▽首藤成美▽遊佐美月★（以上卓球）▽香坂瑞貴★（馬術）▽栗佳穂（バスケットボール）▽マサジェディ翔蓮★（バレーボール）▽友田あかり★（フェンシング）▽大石莉央（ボウリング）▽榊颯太（レスリング）▽荒田幸大（ローラースケート）

【功労賞】
▽時任真一郎氏（水泳部〈競泳〉監督）
▽佐々木重人氏（馬術部部長、野球部部長）
▽齋藤正直氏（野球部監督）

【学生功労賞】
▽木村花（体育会本部委員長＝バスケットボール）
▽千葉里央（体育会本部副委員長＝体育会本部情宣局）
▽宇治橋青葉（体育会本部会計部長＝体育会本部情宣局）
▽高野葵葉（体育会本部情宣局副編集長）

【学生功労賞】
▽佐藤元介（準硬式野球）▽須田央河（水泳・水球）

【学生感謝状】
▽学生自治会▽全學應援團

【特別賞（体育会OBOG連合会賞）】
▽準硬式野球部▽相撲部▽東洋伝拳法部▽フェンシング部

専大スポーツ
編集部
公式
WEB
掲載記事を含む全文はコチラ↑
X @sensuponow
Instagram sensuponow

最優秀選手賞

笠原光太朗

スピードスケート部

笠原は国内だけでなく、日本代表としてW杯に出場し、国際大会でも奮闘。受賞を受けて「大変光栄に思う。個人としての評価だが、チームとして積み重ねてきたことや、多くの方々の支えが形になったものだと考えている。指導者の方々やチームメイトに加え、大学の支援があってこその結果で、競技に集中できる環境を整えていただいたことに心から感謝している」と語った。

「自身の課題と真摯に向き合いながらも、チームとして結果を出すことにこだわり続けた1年間だった。思うような結果が出ない時期もあったが、試行錯誤を重ね、成長を実感できたことは大きな財産となる。目標だった五輪出場をかなえることができず、悔しさもあるが、この経験も今後に必ず生きるものだと前向きに捉えている。これまでの経験を糧に、今後は社会人として新たな環境の中で努力を重ね、さらに成長していきたい」と次の舞台での活躍を誓った。（佐藤＝写真も）

UNIVAS AWARDS

優秀賞に 栩内（相撲部）

UNIVAS AWARDSの表彰式が3月2日に都内で行われ、相撲部の栩内陽向（商4・弘前実業高）がマン・オブ・ザ・イヤーの優秀賞に選出された。

同賞は文武両道を実践し、他の学生の模範となる個人を表彰する。栩内は「シンプルにうれしい。4年間継続してきたことが受賞につながったと思う」と受賞を喜び、「大学4年間は本当に楽しかった。2年連続で学生日本一を取ることができたことが大きな成果。今後は指導者として頑張っていきたい」と語った。（佐藤）

表彰された栩内
撮影＝木田晨一郎（人間科学2）

飛躍

山川 ジャンプNH 3位 コンバインド 4位

全日本学生スキー選手権大会（ジャンプ・コンバインド）＝2月19～22日、北海道・名寄ピヤシリシャンツェ

山川伶欧（経営3・新井高）が存在感を発揮した。ジャンプのノーマルヒル（NH）で3位入賞、ノルディックコンバインドで4位となった。NHは直前の国民スポーツ大会で5位と、良いコンディションでインカレを迎えた。入賞できなかった昨年から大きく飛躍したものの「いつも通りのジャンプができれば優勝も狙えた。一本一本の精度を上げることが課題」と反省を欠かさなかった。

続くコンバインドはジャンプで4位。後半のクロスカントリーで逆転を目指したが3位で総合4位に。山川は複合競技の勝負どころを前半のジャンプと捉え、今季は精度を課題に試行錯誤してきた。「ジャンプで得点を取らないと優勝するのは難しい。調子の波が激しいコンバインドも見直し、来年は両種目優勝することが目標だ」とさらなる高みを目指す。

なおアルペンでは、男子ジャイアントスラロームで竹節天太（商2・中野立志館高）が4位となった。（佐藤＝写真も）

クロスカントリーで力走する山川

リーダーズキャンプ

主将・主務が学びと交流深める

体育会リーダースキャンプが2月27、28日の2日間、静岡県のニューウェルシティ湯河原で行われ、各部の主将・主務がリーダーシップの在り方を学ぶとともに、体育会全体の結束を強める場ともなった。

キャンプでは講演とグループワークを実施。参加者同士が意見を交わし、横のつながりを築く貴重な機会となった。最終日には、班ごとに議論の成果を発表。内容の完成度は高く、発表方法にも工夫がみられた。

また、神奈川県警察本部薬物銃器対策課の担当者による薬物乱用防止講習も行われ、競技者としての自覚と責任についても理解を深めた。（君嶋悠樹・経済2＝写真も）

意見を交わしながらプレゼン資料を作成